

平成26年1月20日  
文化市民局  
(担当 美術館 電話 771-4107)

## 「京都市美術館将来構想（中間まとめ）」に係る市民意見募集について

京都市美術館では、開館80周年を契機に、京都市美術館評議員会及び同「将来構想検討委員会」で、美術館が今後とも国内外の多くの人々を魅了する世界に誇れる美術館となるよう、目指すべき美術館像を明らかにするための検討を進めてきました。

この度、「京都市美術館将来構想（中間まとめ）」を作成しましたので、下記のとおり、市民意見を募集します。

### 記

#### 1 募集期間

平成26年1月21日（火）～2月20日（木）【必着】

#### 2 配架場所

市民意見募集のリーフレットは、1月21日（火）から京都市美術館、市役所案内所及び区役所・支所地域力推進室等で配布します。

#### 3 提出方法

以下「4 提出・問合せ先」を御参照のうえ、郵送、FAX、電子メールのいずれかで提出してください

※ 様式は自由ですが、リーフレットに意見募集用紙を添付しています。

#### 4 提出・問合せ先

京都市美術館総務課（TEL 075-771-4107）

住 所 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町124

F A X 075-761-0444

電子メール [bi.jutsukan@city.kyoto.jp](mailto:bi.jutsukan@city.kyoto.jp)

#### 5 その他

京都市美術館将来構想に関する詳細は、ホームページを御覧ください。

URL <http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/>

皆様の御意見、御提案をお寄せください



京都市美術館将来構想は、現在、「京都市美術館評議会」において検討が進められております。

今回の意見募集は、京都市美術館評議会として、「京都市美術館将来構想 中間まとめ」を取りまとめられたことを踏まえ、市民の皆様の御意見をお聞きするものです。

京都市美術館将来構想に関する詳細は、[京都市美術館ホームページ](http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/)〈<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/kmma/>〉を御覧いただくか、京都市美術館総務課（075-771-4107）にお問い合わせください。

募集期間：平成26年1月21日（火）～平成26年2月20日（木）（消印有効）

様式は自由です。差し支えなければ、住所、氏名、性別、年齢の御記入をお願いします。郵送、FAX、電子メールのいずれかで「京都市美術館総務課」までお送りください。

- 住所 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町124
- FAX 075-761-0444
- 電子メール [bijutsukan@city.kyoto.jp](mailto:bijutsukan@city.kyoto.jp)

#### ★御意見の取扱いについて

お寄せいただいた御意見は、将来構想の策定に向け、検討を深めるための参考とさせていただきます。個別での回答はいたしませんので、御了承ください。

なお、いただきました御意見については、個人に関する情報を除き公開される可能性がありますので、御了承ください。（住所、氏名等は公開しません。）

# 京都市美術館 将来構想について 御意見を募集します



## 創建80年目のイノベーション

千年の都・京都は、永く日本文化を牽引してきました。明治維新の後、東京遷都で京都のまちは一時衰退の危機にあったとは言え、昭和の初めにおいても、東京と並ぶ現代美術の一大中心地としての地歩を占めていました。そのような中、京都市美術館は、昭和3（1928）年に京都で挙行された天皇即位の大礼を永久に慶祝記念する美術館として、関西の財界はもとより、多くの市民の協力を得て昭和8（1933）年11月13日に「大礼記念京都美術館」の名称で、日本で二番目の大規模公立美術館として開設されました。

京都市美術館は、我が国における先駆けとして、「美術館機能」の形成を体験した唯一の公立美術館であり、80年の歴史を誇る京都市美術館の歩みは、そのまま日本における美術館の歴史といっても過言ではありません。

今、京都市美術館は、開館80周年という記念すべき節目を迎えたことを契機に、創建以来80年間に亘り積み上げてきた、輝かしい伝統を次代に継承するとともに、50年、100年先を見据えて、引き続き、「世界文化自由都市宣言」の理念を先導し、世界に誇れる美術館を目指すという決意をもって、京都市美術館将来構想の検討を進めています。

京都市



発行 京都市美術館 平成26年1月  
京都市印刷物番号第254788号



## ～輝かしい伝統を継承し、世界に誇る美術館であるために～

### 現状と課題

輝かしい歴史を誇る京都市美術館であるが、建物・設備の老朽化に加え、スペースの不足、普及教育活動の脆弱さ、職員体制の不足など、様々な課題に直面している。そのような中でも、京都市美術館は、貴重なコレクションを活用した自主企画展をはじめ、海外展、巡回展など多彩な展覧会を開催し、我が国でもトップクラスの入場者数を誇り、日本の美術界において、なお大きな存在感を発揮している。しかし、現状を容認し、何の方策も講じなければ、京都市美術館が輝き続けることは不可能であり、直ちに、目指すべき将来像を明らかにし、対策に着手すべきである。

### 目指すべき方向性と具体的方策

#### 未来に向けて歴史を紡いでいく美術館

京都は、悠久の歴史の中で、多様な文化芸術を重層的に蓄積し、それらをただ守るだけでなく、絶えず新しく生み出すための創意と工夫を続けてきた世界の中でも希有な都市である。京都市美術館も、歴史的背景や、これまで果たしてきた役割を再認識したうえで、従来の文化的蓄積を継承し、新たなものを取り入れながら、未来へつなげていかななくてはならない。今後の更なる発展のためには、展覧会、展示の在り方、コレクション形成をはじめ、あらゆる側面においてこの視点を貫かなくてはならない。

- ① 近代京都の美術・工芸の発展を示す常設展示の実現
- ② 魅力ある主催展・自主企画展の強化
- ③ 過去から未来へつながるコレクションの充実・活用
- ④ 美術館の基盤となる調査研究活動の充実

#### 幅広い世代の人々が集う美術館

美術館は、市民の財産であり、京都以外から訪れるすべての人にとっても京都の文化芸術に触れることのできる大切な場である。京都市美術館は、子どもから高齢者まで幅広い世代に開かれ、市民はもちろんのこと、国内外から人々が集う魅力的な場所であってはならない。

- ① 現代作家や現代作品の企画展の実施
- ② 魅力ある大規模な海外展・全国規模の団体展等の誘致
- ③ 別館の専門性の強化
- ④ 芸術系大学や教育機関等との連携
- ⑤ ワークショップルームなどの新設

#### ゆったり滞在し、ゆっくり楽しめる美術館

京都市美術館は、市民や日本各地、世界各地から訪れるすべての来館者にとって、作品を鑑賞する場所であるとともに、くつろぎや癒しを提供する場でもある。来館者が、作品をゆっくりと鑑賞でき、美術鑑賞の余韻を楽しみ、様々な人と交流できる環境であってはならない。

- ① 展示室等の環境改善
- ② ミュージアムショップ、カフェ、レストランなどの整備
- ③ ユニバーサルデザイン、多言語対応
- ④ 子どものためのスペースの整備
- ⑤ 夜間開館の実施
- ⑥ 様々な事業の展開

#### 日本の文化芸術を牽引し、世界の人々を魅了する美術館

京都市美術館は、80年間の輝かしい歴史の中で、京都のみならず日本の文化芸術の発展に極めて重要な役割を果たしてきた。今後も、50年後、100年後の未来を見据え、日本の文化芸術の中核として、世界の人々を魅了する存在であってはならない。

- ① 京都市美術館を中心とするネットワークの構築、施設間の連携強化
- ② 新たな魅力を創出する再整備
- ③ 世界に向けた発信力の強化と事業展開

### 京都市美術館の再整備 ～伝統と革新の融合～

#### 1 文化財指定を見据えた本館の再整備

我が国を代表する近代建築である本館は、将来的な文化財指定を視野に入れ、その風格と魅力を最大限に発揮する再整備を行うべきである。再整備に当たっては、外観を完全に保存するなど、建物の保全に配慮しつつ、ユニバーサルデザイン化やセキュリティの強化をはじめ、現代のニーズに合わせた整備を行うとともに、中庭を再生し、憩いや展示の空間として活用していくべきである。

#### 2 伝統と革新が融合した新たな展示スペースの創設

現在の活動を充実しつつ、常設展示をはじめとする様々な企画を実施するために、新たな展示スペースを創設すべきである。新たな展示スペースの創設に当たっては、本館とも調和し、伝統と革新が融合した新しい魅力を創出する建築デザインとし、地下空間の大胆な活用も含めて検討すべきである。

#### 3 美術館の発展に不可欠な収蔵庫の拡充

新たな展示スペースの創設と併せ、将来のコレクションの充実も見据えながら、保存・修復の機能を確保しつつ、収蔵スペースの拡充を図るべきである。

#### 4 我が国屈指の文化・交流ゾーンにふさわしいアメニティ施設の整備

我が国屈指の文化・交流ゾーンにふさわしいミュージアムショップ、カフェ、レストランなどのアメニティ施設を整備するとともに、休憩スペースやトイレ等の環境整備を行うべきである。整備に当たっては、疏水に面した趣きのある近代建築である事務棟の活用も検討するべきである。

#### 5 新たなニーズに対応した施設の整備

ワークショップルーム、プレゼンテーションルーム、子どものためのスペースなど、新たなニーズに対応した施設や設備の新設について検討するべきである。

### 運営体制の整備

#### 1 これからの美術館にふさわしい運営体制の検討

公立美術館として、長期的な展望、継続性を持って責任ある運営を行うことが自治体の責務である。そのことを踏まえ、直営による運営に加え、柔軟な運営や、民間活力の導入等の視点から、指定管理制度や、平成25年10月から導入が可能となった地方独立行政法人による運営についても、メリット・デメリット等を十分に検証し、ふさわしい運営体制を検討するべきである。

#### 2 将来構想を実現するためのスタッフの充実

展覧会やコレクション、調査研究の充実のためには、学芸員の充実が不可欠である。また、普及・教育活動、広報、資金調達などの強化には、いずれも専門的なスタッフが必要であり、改めて、総合的に現在の人員体制について検証し、必要な体制の確保を検討するべきである。あわせて、アートマネジメントを学ぶ学生や学芸員をめざす学生などをインターンとして受け入れる制度や、ボランティアの活用、フリーのキュレーターの企画の活用など、本市以外の人材の活用も検討するべきである。

#### 3 魅力ある美術館であり続けるための財源の確保

安定した美術館運営や、展覧会の開催、コレクション収集、施設整備などのためには、まずは、市において十分な予算を確保することが必要である。しかし、自治体の財政状況が厳しい中、様々な工夫も必要であり、常に魅力ある美術館とする取組と発信を行い、企業からの寄付や協賛、所蔵品の寄贈に向けた働きかけを行うべきである。また、資金調達専門のスタッフの確保、ミュージアムショップ・レストラン等も含めたトータルなマネジメント、展覧会収益を美術館運営に充当する仕組みなど、様々な取組を行うべきである。



FAX 075-761-0444 京都市美術館 総務課行



〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 124 京都市美術館 総務課行

### 「京都市美術館将来構想」に対する 御意見記入用紙

(郵送, FAXの場合にお使いください。書ききれない場合は別の用紙に御記入ください。)

全体について

.....  
.....  
.....

目指すべき方向性と具体的方策について

.....  
.....  
.....

京都市美術館の再整備について

.....  
.....  
.....

運営体制の整備について

.....  
.....  
.....

その他

.....  
.....  
.....

御住所

お名前

性 別            男性 ・ 女性

年 齢            (            歳)